

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和7年6月25日 ~ 令和8年3月15日
調査研究事項	以下のⅠ～Ⅴのいずれであるかを記載した上で、研究テーマを明記する。 Ⅰ. 教育課程、教育環境整備に関すること
調査研究のねらい	<p>ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発</p> <p>【高齢者向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人年齢や国籍などの背景が大きく異なることを踏まえ、個の尊重の観点から、特に「ことばの大切さ」を中心とした支援体制を強化する。また、日本語や学習内容の定着を図るため反復学習を基盤とした個別のカリキュラムを組み個に応じた支援を行う。 <p>【外国人向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語支援が必要な生徒数が増加していることから、専門的知見を持った講師を招聘し、助言のもと日本語指導及び支援の視点で、多様な生徒に対応した教育課程の編制を行い、教育活動の充実を図る。 ・継続的に指導を受けている神戸YWCA学院の識字・日本語指導講師を研究授業や研究協議に招聘し、授業力向上をめざし、指導助言を受ける。 ・昨年度に引き続き、JSLカリキュラム導入に向けて情報収集を実施するとともに、年2回の公開研究授業において、教員の授業力を高める。重点を置いて取り組んでいる日本語識字カリキュラムを中心とし、柔軟な学習環境を整えるとともに、生徒が安心して学べる環境づくりに努めた。 <p>イ. 不登校経験者支援(学齢生徒も含む)のための相談体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外国にルーツを持つ人を支援する会」の代表 金子智子さんを招聘した。尼崎の多文化共生のための施策を知り、また、言葉の違いについて多文化の人との接し方について学び、生徒との接し方や生徒理解について、より一層理解を深めた。 ・尼崎南警察署の警察官を招聘し、自分や友達の命について講話を受けた。交通ルールだけでなく不審者や詐欺などへの対応など、自分たちが生活していく上でいろいろな知識を学んだ。 ・本校勤務のカウンセラーを中心に、カウンセリングマインドについて学ぶ機会を設けた。入学を希望する生徒は、それぞれに様々な背景を持ち、学業に対する思いやニーズが異なるため、傾聴することの大切さも含めて事例をもとに行う体験型の研修をした。今後は学齢期に不登校であった方の「学びなおし」に関する相談が増加すると考えられる。丁寧に聞き取ることはもちろん、相談を重ねながら支援できるような校内体制を

	<p>図る。</p> <p>ウ.他市町村の夜間中学や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国夜間中学研究会、近畿夜間中学連絡協議会、兵庫夜間中学振興会における諸会議や合同行事を通して、他の夜間中学との連携強化を図った。また、先進地域での取組を情報収集するとともに、お互いの成果や課題を意見交換し、環境整備を含めた教育活動の充実を図った。 ・成良中学校(本校)や明城小学校(近隣)との児童生徒同士の交流をさらに推進した。交流を通して、生徒の自己有用感を高めるとともに、夜間中学の広報活動にも力を入れた。広報活動及び周知方法については、生徒募集案内を本市のホームページに掲載された。また、来年度に向けて本校独自のポスターを制作中である。 <p>エ.専門スタッフ(通訳など)を活用した教育活動の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来日間もない外国籍の生徒が多く、学力や日本語の理解や生活上に不安等、多岐にわたる個別対応が求められる。教科指導や生活指導・支援を行う上での、心理的安全面の確保や日本語支援を充実させ、学びの環境を整えた。 ・今後も増加することが見込まれる外国籍生徒への支援を継続して充実させる必要があるため、通訳などの専門スタッフを活用する。母語で話せる環境づくりを増やすとともに、専門スタッフと情報共有を密にしていく。 <p>オ.経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校はコミュニケーション能力や社会性を育成する場であることを踏まえ、学校行事や校外学習等において、生徒会自治について研究をすすめる。学習指導要領にある特別活動の目標「望ましい集団活動を通しての、心身の調和のとれた発達と個性の伸長」を図るため、様々な行事について生徒へ主導権をもたせ、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画する姿勢を育成した。 ・校外行事における交通費や運搬費等が高額になると、参加を断念する生徒や経済的な負担を感じる生徒が多い。貸し切りバスの借用代金を補填することで生徒の負担感を緩和し、多くの生徒が体験的な校外活動等に参加できるよう支援体制の充実を図った。 <p>カ.ICTを活用した生徒の学習活動の支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事での活動を記録し、動画視聴や写真掲示を拡充させた。生徒が活動を客観的に振り返り、次年度の活動を充実したり学習内容を個々に深めたりできるよう支援を強化した。
調査研究の成果	ア 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発

・大阪産業大学国際学部国際学科の新矢麻紀子教授を教員研修の講師として招聘し、「今日の夜間中学における識字・日本語指導について」をテーマにした教員研修を行った。

「第二言語としての日本語習得に向けた、即興的対応と長期的対応」や「日本語を教える際に留意すること」など、日本語の指導方法や多様な生徒への効果的なカリキュラムの学びを深めた。

・神戸YWCA学院の識字・日本語指導講師 斎藤明子氏を講師として招聘し、日本語(国語)の研究授業を実施し、指導助言を得ることで「第二言語としての日本語」教育の指導について学びを深めた。

・「外国にルーツを持つ人を支援する会」の金子智子代表を講師に迎え、ことばの壁や共生の在り方などについて学びを深めた。

イ 不登校経験者支援のための相談体制の整備

・本校スクールカウンセラーの追手門大学芳田一樹教授によるカウンセリングマインド研修を行い、本校生徒を事例にしたケース検討では、より具体的で実践的な生徒への対応について学ぶことができた。

・尼崎南警察の警察官を講師として招聘し、自分の命や周囲の命を守るため、交通ルールを守る大切さだけでなく、不審者対応など、身近に起こる事例への対応も学んだ。

ウ 他市町村の夜間中学との連携

・全国夜間中学研究会第71回東大阪大会

【2日間のべ10名の教員と8名の生徒が参加】

兵庫県内4校の連携強化に加えて、全夜中研や近夜中協との関係の充実を図ることもできた。夜間中学の直面する課題については、急増する海外からの生徒への対応や、夜間中学における教育課程やカリキュラムの編成など、他市町でも同様であり、情報共有等を綿密に行うことができた。夜間中学の充実に向けては、取組の一層の推進が求められているなか、さらに横のつながりを密にしようとする機運が高まった。

・尼崎市立成良中学校(本校)や尼崎市立明城小学校(近隣小学校)と交流し自己紹介や質問に答えながら自己有用感を高めた。

また、本校独自でポスターを作成し、本校の広報活動に力を注いだ。

エ 専門スタッフ(通訳など)を活用した教育活動の在り方について

・外国籍の生徒に対し、通訳などのサポートを行うことにより、学習内容の理解はもちろんのこと、学校行事の事前、事後指導の充実や、校外指導における安全面の確保が可能となり、学びの保障や教育活動の充実を図ることができた。また、生徒の体験的な学びが可能となった。

さらには、伝えたい言葉が通じることで、生徒の心の安定につながっている。安心して学べる環境づくりを進めることができた。

オ 経済的負担を考慮した効果的な校内外行事等の在り方について

・生徒の学ぶ意欲や連帯感の向上、さらには同じ環境で学ぶ他校の生徒との触れ合い(交流)を期待して、校外学習の企画、実施や、近畿夜間中学校運動会、作品展に参加した。

電車での移動は負担を感じている生徒が多く、年々参加率の低下が懸念事項であったため、バスでの移動で生徒の参加率が増加した。特に60代以上の生徒が10名(内80代が6名)も参加することができたことで、泊を伴う学校行事のない本校にとって大変意義のある校外学習となっている。

「自分では行けないところへ行ったので嬉しかった」「バスでみんなと一緒に行って嬉しかった」などの感想があり、校外学習を計画する際は、高齢の生徒が参加できるものを計画する必要があることが改めて実感した。

カ ICTを活用した生徒の学習活動の支援について

・授業において、ほとんどの授業でICTを活用し、動画教材等で視覚的支援に努めた。さらには本校勤務のICT支援員と連携し、技術の授業において、プログラミングの基礎を取り入れた。生徒によって理解度が異なるため、一斉に授業をすることが難しかったが、今後の社会的自立に向けてとても良いツールとなった。